

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.idg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010



< 記念講演後に総会出席者の記念撮影 >

宗宮会長「創立 20 周年へ 準備急ぐ」

2015 (平成 27) 年 年次総会開く

今年次総会は 5 月 16 日(土)午後 2 時から船橋グランドホテルで開かれた。宗宮好和会長は挨拶で、協会発足の契機になった「ドイツ軍人慰霊祭」が昨年 11 月に満 20 周年を迎えたことを報告し、協会創立 20 周年になる来年に向けた方針を説明した。さらに、会長は一般会計の窮状打開策に触れて「会費の値上げで会員が協会を離れないようにするために多くの会員の寄付をお願いします」と呼びかけた。

新年度を迎えて

会長 宗宮 好和

Jubiläum (ユビレーウム) [記念祭、記念日]。先日半蔵門線に乗ったら全車両貸切広告でドイツの各種工業製品や観光地ほかのポスターが全面にあり、液晶画面にも CF が映し出されていました。広告主はドイツ観光局。ドイツ統一 25 周年の Jubiläum の一環とみましたが、統一 (1990 年 10 月 3 日) とその前年 (1989 年 11 月 9 日) のベルリンの壁崩壊の驚きと感動が蘇ってきました。ましてやドイツの人たちの感慨はいかばかりかと思ひます。

さて、当協会では、来年、協会設立 20 周年を迎えます。ささやかなものであれ、盛大なものであれ、das 20. Jubiläum にふさわしいイベントが開催できたらと願っています。今年はその準備にあてることになりますが、皆様の積極的なご提案とご協力、そして何よりも、ご参加を心よりお願い申し上げます。

総会の出席者は 43 (委任状 60) 人で、杉田房之・常任理事(事務局長)の開会の辞でスタート。議長に選出された西阪知晃・理事の司会で議案審議に入った。須古正恒・常任理事が 14、15 年度の事業報告(案)、杉田・事務局長が同決算報告(案)、収支予算(案)をそれぞれ説明。小野寺輝孝・監事が監査報告をした。役員に

ついて、山田弘明、国枝誠昭、平井保彦の 3 氏が理事を退任し、稲垣亨、吉川三朗両氏が新理事に選出され、総会を終了した。(3 面に 14 年度決算、事業報告)

総会に続いて、当協会発足以来の会員で元海上自衛隊東京音楽隊長、谷村政次郎氏が「日独軍楽交流史」をテーマに記念講演を行った。

知られざる「日独軍楽交流史」 記念講演

谷村氏は幕末・明治から始まった両国の軍楽交流史を語り出し、1879 年に来日したプロイセンの F. Eckert の指導、ドイツに留学しわが国の吹奏楽史上に大きな足跡を残した吉本光蔵、軍艦マーチの瀬戸口藤吉の功績などを紹介した。

谷村氏は、吉本の「東京湾凱旋観艦式記念行進曲」や瀬戸口が臍を曲げたというドイツ風にアレンジした軍艦マーチ、ドイツで有名な「ホッホ・ハイデックスビルク」の CD 演奏を会場に流して、両国軍楽の音楽性の違いや軍楽交流を通じた隊員の寄寓やエピソードを披露し、会場の拍手を浴びた。

(講演要旨と、講師略歴は 2 面)

講演終了後、谷村氏を交えて総会出席者の記念撮影を行い、午後 4 時ころから懇親会へ。来賓、会員 37 人が出席し、ドイツ国歌の斉唱に続いて、平尾浩三・名誉会長の乾杯の挨拶、ビールや料理を味わいながら総会の緊張から解放されたひと時を楽しんだ。

【谷村政次郎氏の講演「日独軍楽交流史」要旨】

1860(万延元)年7月、プロイセン使節オイレンブルクが通商条約締結(国書奉呈)のため軍艦で初来日。同艦軍楽隊が三田から赤羽根接遇所までプロイセン国歌が入った「プロイセン行進曲」で行進、「別離」も演奏されている。当時のドイツは、まだ統一国家ではなかったことから、この曲で行進したのであろう。

1869(明治2)年、薩摩藩の軍楽伝習生が、英国陸軍軍楽隊長 J. W. フェントンから指導を受けたのが日本の軍楽の始めで、フェントンは「日本の吹奏楽生みの親」と言われている。



1879(明治12)年3月、ウイヘルムスハーフェンの海軍軍楽隊長から招聘されて来日したのが F. エッケルトである。1899(明治32)年4月まで滞在し、海軍軍楽隊、陸軍軍楽隊、宮内省楽部等を指導し「日本の吹奏楽育ての親」と言われている。国歌「君が代」の吹奏楽編曲、葬送曲「哀の極み」の作曲、「海軍軍楽学理的教科書」の編纂主導に貢献し、来年は没後百周年で、記念行事が計画されている。

1878(明治11)年6月海軍軍楽隊に入隊した吉本光蔵が、その後の日本軍楽の発展に大きく貢献している。1899(明治32)年7月から

くにごやかに日独の軍楽交流を語る谷村氏> ドイツへ留学し、ベルリン王立高等音楽院軍楽科で軍楽全般を学んだ。1902(明治35)年6月に帰国、翌年日露戦争に従軍している。

吉本楽長の遺品を保管していた孫の玉川加代子氏から『日本海軍軍装図鑑』の著者・柳生悦子氏に連絡があったのは2003(平成15)年秋。柳生氏、塚原康子氏(現東京藝術大学教授)と私が玉川家を訪問し、吉本楽長のドイツ滞在時の日記、軍装等、多くの貴重な資料の存在を知った。留学中の瀧廉太郎(ピアノ)、幸田文(ヴァイオリン)と吉本のクラリネットで三重奏を行った新しい事実も明らかになった。

1907(明治40)年、遣外艦隊「筑波」でキールを訪問した海軍軍楽隊(隊長、瀬戸口藤吉)は、ドイツ海軍軍楽隊と合同演奏を行った。1911(明治44)年、再訪した瀬戸口隊長が贈呈した行進曲「軍艦」は、ハッセルマン軍楽隊長によってドイツ風に編曲された。瀬戸口は内心快く思わず、生涯演奏することはなかったが、その総譜は瀬戸口家に秘匿されていて、83年振りに東京音楽隊の演奏会で初演されている。

1937(昭和12)年、軍艦「足柄」は英国ジョージ6世の戴冠式記念観艦式に参加後、キールを訪問した。海軍軍楽隊が、ウンターデンリンデン通りを50分間の歴史的な大行軍を行い、ベルリン市民を熱狂させている。

1879(明治12)年5月以来、ドイツ海軍軍楽隊も度々来日し各地で演奏を行っている。1937(昭和12)年1月には「歓迎ドイツ軍艦エムデン号入港、日独交歓演奏大会」が日比谷公会堂で開かれ、ラジオで実況放送されている。1980(昭和55)年9月には同所で西ドイツ陸軍軍楽隊隊長シュリーター中佐を迎え、海上自衛隊東京音楽隊により行進曲のみの演奏会が実施された。

日本とドイツ両国の間でさまざまな交流が繰り返されたが、軍楽の交流が系統的に行われ、大変有意義であったことを報告したい。
(渡部 武弘)

講師、谷村政次郎氏略歴：1938(昭和13)年8月、東京都渋谷区生まれ。1957(昭和32)年、東京都立駒場高校卒業。同年、海上自衛隊東京音楽隊入隊。1973(昭和48)年7月、海上自衛隊幹部候補生学校卒。3等海尉任官。1991(平成3)年12月～94(同6)年8月、第11代東京音楽隊長。同年8月10日退官、2等海佐。

(在職中 昭和33、36、42、45、50、56年度の練習艦隊の遠洋練習航海および44年の派米、48年のグアム実習航海に参加。練習艦隊、佐世保、横須賀の各音楽隊長を歴任)

現在 日本スーザ協会会長[注：John Philip Sousa (1854-1932)「星条旗よ永遠なれ」などの作曲で知られ、マーチ王]。受賞：2010(平成22)年第18回日本管・打吹奏楽アカデミー賞(研究部門)。著書『行進曲「軍艦」百年の航跡—日本吹奏楽史に輝く「軍艦マーチ」の真実を求めて—』(2000)大村書店刊『日比谷公園音楽堂のプログラム—日本吹奏楽史に輝く軍楽隊の記録—』(2010)つくばね舎刊『日本の軍歌と禮式曲—帝國海軍の音楽遺産と海上自衛隊—』(近刊)

2014年(平成26年)度収支決算報告書
(自)2014年4月1日 (至)2015年3月31日

一般会計

	勘定項目	金額	摘要
収入の部	2013年度繰越	¥ 89,806	
	法人入会金	—	
	法人年会費	¥ 60,000	5社(清和会、同和会、京葉ビル管理、和幸電気、メルセデス・ベンツ日本)
	個人入会金	¥ 20,000	10名
	個人年会費	¥ 381,000	118名(個人)、8名(家族)、他
	行事収入	¥ 75,390	ビール祭、ドイツ語講習会、新春講演会、等
	総会懇親会収入	¥ 175,000	2014年度総会懇親会収入
	寄付金	¥ 32,500	会員4名より
	受取利息	¥ 49	
	その他	¥ 73,500	立替分(60000円)、特別会計より(7420円)、他
	収入の部合計	¥ 907,245	
支出の部	協会通信作成費	¥ 101,664	4、6、8、10、12、2月作成
	記録費	¥ 1,265	総会写真
	通信費	¥ 136,715	メール便、切手、はがき
	行事支払諸費用	¥ 16,200	行事、講演会、等
	会議費	¥ 34,467	会議、総会会場費、運営委員会
	車代、謝礼	¥ 50,000	講演会講師謝礼
	団体年会費	¥ 50,000	チバコンベンション全国日独協会、千葉国際交流、船橋国際交流
	印刷文具費	¥ 64,302	コピー、印刷、文具
	総会懇親会費用	¥ 175,000	総会懇親会
	慶弔費	—	
	交際費	¥ 19,637	千葉県庁、自衛隊、講師等
	寄付金支払	¥ 20,000	自衛隊(夏、新年)
	ホームページ管理費	¥ 70,200	12ヶ月分
	事務経費	¥ 40,000	
	交通費	¥ 62,630	旅行補助(注:収入へ戻り)
	宿泊費	—	
	雑費	¥ 3,746	振込手数料
	支出の部合計	¥ 845,826	
	次期繰越金	¥ 61,419	
	支出の部総合計	¥ 907,245	

<2014年(平成26年)度 千葉県日独協会事業報告>

1. 主な会議：◇運営委員会：毎月、船橋市市民活動サポートセンター&船橋市中央公民館◇理事会：4月19日、船橋市西部公民館◇年次総会：5月10日、フローラ西船
2. 主要行事：(1) 定例行事：①総会記念講演：5月10日(土) フローラ西船 講師・五倫文庫理事長、伊藤良昌氏 演題「五倫文庫の由来と活動」②ビール祭り：8月30日、「マイネクライネ」蔵前③第20回ドイツ軍人慰霊祭：11月16日、船橋市営習志野霊園④クリスマス・忘年会：12月6日、京成津田沼駅近くの「コールポニョポニョ」⑤新春講演会：2015年2月21日、千葉市生涯学習センター 講師・公益財団法人・日独協会理事、黒川剛氏 演題「二つの大戦と日独関係」
3. 文化・教養行事：①ボトルシップ研究会(習志野俘虜収容所の調査・研究) 4月19日～2015年3月30日まで計6回開催 船橋市中央公民館、海神公民館など 2014年11月19日～20日は板東収容所跡地、ドイツ館(徳島県へ研修旅行)②ドイツ語講習会：11月10日～12月15日まで計5回。船橋市中央公民館 講師・岡村三郎氏(当協会理事、早稲田大学国際学術院教授) テキストはReiner Kunze作「Der Löwe Reopold」③後援：「日独友好紫陽花メモリアルコンサート」「松本佳苗コンサート」「土屋有里ピアノコンサート」「第37回習志野第九演奏会」
4. 特別行事：①「いちかわドイツデー」(後援と写真展)9月28日 ②「船橋オクトバーフェスト」(同)10月10日～12日 ③「習志野ドイツフェア」(協力と写真展)10月18日～19日 ④会員懇親旅行 11月19日～20日 ボトルシップ研究会の研修会と合同で、徳島県鳴門市のドイツ館などを見学、旅行した。⑤千葉大のドイツ人女子学生(4人)のホームステイ実施：2015年11月17-18日、同24-25日に当協会初めてとなる会員宅で受け入れを実施し、一泊二日の交流を深めた。
5. 協会通信「Die Eiche」の発行(年6回)：91号以降、カラー化、4ページ、紙質の改善など誌面を刷新した。
6. 千葉県日独協会ホームページの公開：2013年1月より公開し、原則毎月更新・管理している。

2015 年 全国日独協会連合会 年次総会開く

総会が開かれたのは 4 月 17 日(金)、18 日(土)の 2 日間で、福島県・いわき市勿来の関「吹風殿」に 23 協会・66 人が参加(委任状 16 協会)し、当協会から橋口昭八・副会長、渡部武弘・理事が出席した。フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使、清水敏男・いわき市長が招かれ顔を見せた。

総会初日は、まず主管の鎌田哲男いわき日独協会会長と柴田健作会員によるブーズ一弁での歓迎掛け合い漫才が行われ、参加者の爆笑を誘った。その後、主催者である連合会の木村連合会会長代行、来賓のヴェアテルン大使、清水敏男市長、星昭光いわき日独協会名誉会長の挨拶で、議題の審議に入った。



< 2 日間にわたって熱心な討議が続いた連合総会 >

・承認事項：①茨城日独協会退会の承認②

2014 年度決算と 2015 年度予算案③日協

会連合会創立 50 周年記念出版「生き生きとした友好関係-ドイツと日本」配布の件④「ドイツと日本を結ぶもの-日独修好 150 年の歴史-」展示、国立歴史民族博物館(佐倉市) 主催など

・報告事項：①2013 年札幌総会における赤字補填の件②2015 年日独協会連合会総会とベルリン日独協会創立 125 周年記念式典参加旅行(25 人参加) ③日独若者交流促進資金使用状況

・各協会からの現況報告：当協会から橋口副会長が 1) 第 20 回ドイツ軍人追悼慰霊祭、2) 新春講演会 3) 習志野俘虜収容所を巡るボトルシップ研究会について報告した。

続いて、懇親会が「アクアマリンふくしま」で開かれ、黒潮と親潮が交錯する潮目の大水槽を下から眺め、多くの海洋生物に感動し、直輸入のモーゼルワインを堪能した。

翌日、4 月 18 日(土)は、いわき日独協会相談役藁谷友紀氏(早大学長代理)が「ドイツの今を考える-一戦後 70 年と日本の視点から-」の基調講演をした。概要は①ドイツ(国家、民族)とは何か：国民、国家、戦争と基本法：二つの大戦からの教訓を受け人間の尊厳を守る基本法の下に戦後の移民政

策として宗教、文化、イスラム国に関わらず違法でも受け入れているが、現在は揺らいでいる。②EU に至る展開：自立のために欧州の中でのドイツを確立するために ECSC、EEC、EURATOM を経て欧州連合(EU, 1993 年)を達成したが、政治統合はまだ達成されていない。③経済政策と共通政策：1) ドイツではインフラによる景気浮揚を、仏では中央集権的景気浮揚を図っているが、ドイツでも公共事業や国民の生活安定化による景気浮揚が必要。2) ドイツの興味対象は日本ではなくお金をたくさん持っている中国であり、戦略的パートナーである。その中で日本はどのように対応するかを考える必要がある。

午後から、希望者がバスに分乗し、星一顕彰碑とその生家、安藤信正公銅像、同菩提寺を見学した。

連合会総会に参加して

連合会総会は初めての参加だったが、多くの他協会会員との交流ができ、貴重な知見を得ることが出来た。地方ならではの歴史、伝統、人脈を絡めた大会運営に感動した。安藤信正公(14 代将軍徳川家茂時代の老中、公武合体達成、「米国統治の硫黄島買収」、「朝鮮統治の対馬を強制奪還」)を誇りとし、現在の第 16 代当主を尊敬している。4 月 18 日(土)午後の見学会では、いわき市議会議員による案内と説明に感謝した。星一氏の功績(1. 星薬科大学と星製薬の創設者 2. 第一次世界大戦後の科学技術復興の為にドイツへ 20 億円の資金援助 3. 野口英世博士の帰国と関連事業費用の全額援助)の中で、会津の偉人野口英世博士への援助に感激した 4. 総会、懇親会では多くの女性会員たちの活躍が目をつけた。各協会では独自の企画により活性化を図っており、有意義かつ楽しい総会であった。(渡部 武弘)



美しい緑のドイツ



小野寺 輝孝

北に位置するドイツでは春になるといっせいに花が咲き樹々は新緑に蔽われる。「ドイツは美しい」と感じる季節である。ドイツの人たちは陽の光が少なかった冬からの解放感を味わうかのように戸外での生活を楽しみ始める。

会社の移転に伴いフランクフルトの北西約 20 kmにある小さな街 **Kronberg** に住まいをここに決めたのも彼らのように緑の中で戸外の生活を楽しみたいと思ったからだ。

ドイツ皇帝フリードリヒ 3 世の皇后ヴィクトリア・ルイーザ



<自宅があった **kronberg** のまち>

(英・ヴィクトリア女王の長女) が皇帝の死後移り住んだ宮殿 (今はホテル) や公園、大きな街路樹が重なる緑豊かな美しい街だった。宮殿のゴルフコースが住まいの近くまでせり出て解放感とともに緑の美しさを楽しませてくれていた。

初夏には近くの木立の中でクロウタドリ (*die Amsel*) が鳴き始める。



大きさといい黒褐色の羽の色といいカラスに似てるが、オレンジの嘴、つやのある羽根、何よりもその美しい声から貴婦人の雰囲気すら感じさせてくれる。ドイツの人たちのように時間を見つけて

<クロウタドリ **birdavenue** より>

は家の周りをよく歩き回った。

野鳥の声を聴きながら公園を歩き、その先の木組みの家が並ぶ旧市街地へ。石畳の狭い路地を巡り最後はビールとドイツ料理を楽しみフラフラしながら家に帰るといったドイツらしい?生活を大いに楽しんだ。

秋もよかった。ドイツは冬の日照が少ないため家の周りの木は落葉樹が多い。それらが一斉に黄色に染まる光景は見事なものだった。

歩き回るといえば家から比較的近い (100km ほど離れた) ハイデルベルグはお気に入りの歩くコースだった。日本からの出張者や知人が来ると出かけたので、そう 30 回ぐらいは歩いただろうか。

ネッカー川に沿った「哲学の道」を対岸のハイデルベルグ城を見ながらゆっくりと歩く。川面から高いところにある道なので眺めもすばらしかった。最後は城に上り中世の街並みとネッカー川を見下ろし遠い昔に思いを馳せると、たっぷり「ドイツ」を感じることができた。

日本からの年輩の出張者が「一度ハイデルベルグに来てみたかった」と感慨深げに話していたのが思い出される。「アルトハイデルベルグ」をむさぼり読んだ若いころを思い出されたのではないだろうか。

ドイツにはロマンチック街道やライン下りなど魅力的なスポットは多いが、私は日常的な何気ないドイツの風景が好きだった。

圧巻だったフィナーレ・花火 *Japan-Tag Düsseldorf 2015*

“日本デー2015”は5月30日、市庁舎横のブルク広場の特設ステージを中心に行われた。今年は千葉県とデュッセルドルフ市の交流覚書交換から10周年。前日の29日に森田健作知事、ガイゼル市長出席のもと記念式典が開かれた。日本デー当日は、日本人学校、同幼稚園、日本クラブなどによる邦楽演奏、日本舞踊が華やかに繰り広げられた。ラインの河岸では武道の実演も。県関係者、独日協会や日本クラブ関係者が県のテントで交流イベントを手伝った。檜山元日本クラブ事務局長によると、日中は土砂降りに見舞われてテントは雨宿りの人たちで大混雑、気温も下がりコスプレのドイツ人若者たちもブルブル。漸く日が暮れた11時過ぎに、月も出て対岸のライン河原から日本の花火が打ち上



げられた。TV中継のアナウンサーが「日本の素晴らしい Geschenk (贈り物) だ」などと大興奮。インターネットでも「NRW州日本デー: 65万人の参加者 日本に魅了さる」と速報した (写真も)。日本クラブバザーの売上が€9,200 (¥1,270,000) と最高を記録し、今年の突風で被害のあった同市緑化のために、同庭園局に寄付されたという。

(橋口 昭八)

<ご寄付のお願い> この度、大変心苦しいのですが、別紙に詳細を記しましたように、会員の皆様のご厚志をお願いすることになりました。「一般会計」の健全化と来年迎える当協会の創立 20 周年の記念行事 (現在、計画準備中) の実現のためにもご理解とご協力を心からお願い申し上げます。 (会長 宗宮好和)

□これからの催し

◆日独修好 150 周年の交流を振り返る巡回展覧会

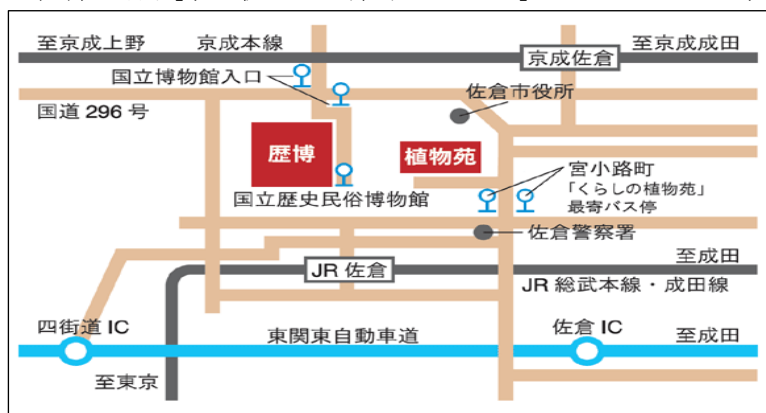
佐倉市にある「国立歴史民俗博物館」で、7 月 7 日（火）から 9 月 6 日（日）までの間、「ドイツと日本を結ぶもの—日独修好 150 年の歴史—」と題する展覧会が開催される。この催しには、全国の日独協会、ドイツとの友好都市等約 70 団体からの出展が見込まれているが、千葉県日独協会は、展示パネル 2 枚の出展を予定している。1 枚は「当協会の設立経緯・活動」、1 枚は「千葉県とドイツ」をテーマとして、写真を中心としたパネルで説明する。

佐倉の展示を終えた後、9 月～11 月「長崎歴史文化博物館」、12 月～2016 年 1 月「鳴門市ドイツ館」、2 月～4 月「横浜開港資料館」で延べ 10 か月にわたり巡回開催されることになっている。当協会の会員の皆さまには展覧会開催中に、是非一度佐倉に足を運び、日独交流史を見ていただきたい。

佐倉国立歴史民俗博物館：佐倉市城内町 117

☎ 043-486-0123

（杉田 房之）



<歴博アクセスマップ> —HP より—

◆千葉大に留学しているドイツ人学生との懇親会

当協会が今年 1 月、4 人の会員宅にドイツ人留学生を招いたホームステイ（一泊二日）は学生と会員にとって大変有意義なものでした。留学生の在日生活を更に有意義なものにし、会員と若いドイツ人との交流、友好を深めるために懇親会を企画しています。これからのホームステイを一層意義あるものとし、留学生との意見交換をするために会員皆さまの参加をお待ちしています。

- ・日時：6 月 27 日（土）P.M.5：00～
- ・場所：未定、JR 船橋駅周辺を予定（参加者に後日、連絡します）
- ・参加予定留学生：Frau Christin Wolf, Frau Ramona Röss

参加希望者は、6 月 23 日（火）までに、渡部武弘（当協会理事）へ。☎ & Fax 043-432-9252

E-mail: watatake@faculty.chiba-u.jp



Die Eiche の編集委員募集

千葉県日独協会は機関誌の編集をしてくださる方を募集します。Die Eiche は原則として、毎年 4 月号から 2 ヶ月ごとに年 6 回発行しています。協会発足のきっかけとなった「ドイツ軍人慰霊祭」が 20 周年を迎えた昨年秋に誌面を刷新しました。会員相互のコミュニケーション・ツールとして、より新しい役割を果たしたいと願っての再スタートでした。来年は協会発足満 20 年になり、Die Eiche も 100 号の節目を迎えます。更なる誌面充実を図るため、次のように編集者を募ります。①誌面の企画・立案と、取材・執筆 ②パソコン（ワード）で誌面のレイアウト（割り付け）と、印刷所への送信 ③前記①、②双方のできる方——です。現在、編集長は田中正延。新たに、志賀久徳氏（会員）が編集委員に加わっていただきます。応募くださる会員は、杉田房之事務局長（sugita-f@tbz.t-com.ne.jp）、田中（m_tanaka@bb.em-net.ne.jp）へご連絡ください。

編集後記

記念講演「日独軍楽交流史」は、クラシック音楽とはまた違った交流の側面を知るうえで興味深かった。世界でも名曲とされる「軍艦行進曲」の作曲者、瀬戸口藤吉が自信を持って渡したであろう楽譜を、ドイツ風に編曲された話。その曲を生涯、演奏することもなかった瀬戸口の誇りと憤懣は、明治期にドイツから多くを学んだ日本人に一面、どこか共通する感情でもあったか、と想像する。今年の日独協会連合会総会では最近の日独関係について、“上から目線”の交流や中国に傾斜するドイツの問題が取り上げられたという。2016 年、当協会は発足満 20 周年を迎える。私たちは「新しい日独交流」をどのように実践していくのか、そのあり方を会員の皆さまとじっくり考えてみたいと思う。（M.T.）